



平成30年7月 マンスリー レポート

集計企業数 55 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	58,803,458 万円	100.0%	102.2% (101.4%)	57,213,977 万円	100.9% (100.3%)
食 料 品	50,198,730 万円	85.4% (85.3%)	103.1% (101.8%)	48,773,275 万円	101.7% (100.5%)
農 産	7,284,681 万円	12.4% (12.6%)	105.6% (100.4%)	7,074,506 万円	104.1% (99.2%)
水 産	4,648,459 万円	7.9% (7.6%)	102.3% (101.5%)	4,517,723 万円	100.9% (100.2%)
畜 産	6,022,124 万円	10.2% (10.7%)	102.5% (101.9%)	5,844,149 万円	100.8% (100.4%)
惣 菜	5,813,915 万円	9.9% (9.7%)	102.6% (102.7%)	5,623,720 万円	100.7% (100.9%)
日配食品	11,550,046 万円	19.7% (19.4%)	103.2% (101.0%)	11,231,657 万円	101.8% (99.8%)
加工食品	14,879,504 万円	25.3% (25.3%)	102.7% (102.7%)	14,481,520 万円	101.4% (101.5%)
生活関連	3,619,889 万円	6.2% (6.2%)	98.8% (100.4%)	3,542,872 万円	98.1% (99.7%)
衣 料 品	1,728,193 万円	2.9% (3.1%)	94.5% (98.1%)	1,710,299 万円	95.0% (98.5%)
そ の 他	3,256,645 万円	5.5 (5.4%)	96.2% (98.8%)	3,187,532 万円	96.5% (99.0%)

② 数 値

全店総売上高	58,803,458 万円	店 舗 数	4,737 店舗
総売場面積	9,582,020.3 m ²	総従業員数	250,931 人

店舗平均月商	12,413.6 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,878.4 円 (100.7%)
月間m ² 売上(前月)	6.1 万円 (5.9 万円)	平均店舗面積	2,022.8 m ²
月間坪売上(前月)	20.3 万円 (19.5 万円)	パート比率(前月)	77.1% (77.2%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 7月の天候について、月の平均気温は全国的にかなり高かった。降水量は、北日本の日本海側と西日本の太平洋側および沖縄・奄美地方で多かった。日照時間は東日本と西日本の日本海側でかなり多かった
- ・ 西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となった「平成30年7月豪雨」が発生した
- ・ 生鮮品の相場状況について、野菜は、高温と雨不足で出荷量が落ちた影響により、前月までの安値から一転して高値、果実はほぼ前年並みであった。水産物は市場への総入荷量が少なく、「いわし」や「さば」などの大衆魚が高値であった。畜産物では国産の豚肉が高値であった一方、国産の鶏肉は「もも肉」「むね肉」ともに安値であった
- ・ 前年と比べ、火曜日が1回多く土曜日が1回少ない曜日廻りであった

《 商品動向 》

・ 農産

- ・ 気温の上昇により、「きゅうり」や「トマト」などのサラダ野菜が好調となった
- ・ 旬の食材において、野菜では「とうもろこし」の好不調の判断が分かれた。果実では「スイカ」、「桃」や「梨」が概ね好調であった一方、「メロン」は不調であった。輸入果実では「バナナ」と「キウイフルーツ」が好調であった
- ・ 「リンゴ」は入荷が少なく価格が高かったため不調であった

・ 水産

- ・ 気温の上昇と、前年不調であった反動により、「刺身」と「海藻類」が好調であった
- ・ 「うなぎ」は稚魚不漁による価格の高騰により、国産うなぎを中心に不調であった

・ 畜産

- ・ 牛肉は「アンガス牛」などの輸入牛が好調であった。用途別では「焼肉用」「ステーキ用」が好調であった
- ・ 豚肉は国産が相場高となっているが、気温の上昇により「冷しゃぶ用」や「焼肉用」は好調であった
- ・ 国産の鶏肉は相場安による販促回数が増えたことにより、概ね好調であった

・ 惣菜

- ・ 連日の猛暑により、「冷やし麺」、「セット麺」や「冷惣菜」などの涼味商材が好調であった
- ・ 夏休みの簡便商材として、「弁当」、「丼」や「スナック類」が好調であった

- ・ 日配・加工食品

- ・ 連日の猛暑により、「飲料」、「アイス」や「麺類」、「乾麺」が好調であった一方、「パン」、「和菓子」、「練り物」や「嗜好品」は不調であった
- ・ 熱中症対策として、塩分補給用の「タブレット」や「梅干し」が好調であった
- ・ 連日の猛暑による需要増により、「スポーツドリンク」や「氷菓」の品切れが相次ぎ、塩分補給用の「タブレット」も品薄状態となった
- ・ 「納豆」ブームが続き、引き続き売上は好調であった

- ・ 「土用の丑」の取り組みと動向について

- ・ 国産うなぎの高騰により蒲焼きは不調であったとのコメントが多かった一方、中国産うなぎの蒲焼き、うなぎ重、うなぎ寿司などの米飯類は好調であったとのコメントが多くみられた
- ・ うなぎの代替として他魚種や豚肉を使用した蒲焼き、「うし」にちなみ、牛肉を強化した取り組みが多くみられた

- ・ 「お中元ギフト」の取り組みと動向について

- ・ お中元ギフト全体では前年割れのコメントが多くみられた
- ・ 商品動向において、畜産ギフトとグロサリーギフトが不調であったとのコメントが多くみられた

以 上